

こんにちは。皆様、いかがお過ごしでしょうか？寄稿してもらいましたよ。アンパンチ！！

今年度、3年生72期生の担任をし、卒業生を送り出しました。最後のHRでは、3つのことについて話したのですが、その中の一つ、「アンパンマン」についてここで73期生みなさんに話をしたいと思います。

「それいけ！アンパンマン」、みなさんは子どものころ見ていましたか？物心がつく前かもしれませんが、多くの子どもたちが一度は通る道のように思います。TVや絵本で見てなくとも、お菓子やグッズなども数多くあるので、誰もがその存在は認めているところでしょう。

調べてみると、1975年頃に出版されたそうです。私が生まれる前で、もしかしたらみなさんの保護者の方も幼少期に見たり読んだりしていたかもしれません。



さて、そんなアンパンマン、うちの息子も例外ではありません。テレビでアンパンマンが始まると、「まんまん！」と指差して、テレビにかじりつきます（その後、「近い！」と私に引きはがされ、改めて定位置で正座をして、じーっと見続けます）。



よく一緒に私も見ることになるのですが、ある時、主題歌である「アンパンマンのマーチ」の歌詞が、妙に心に響いてきました。何か忘れかけていた大事なもの、そして、いま生徒たちに対して伝えたいこと、その2つが合体して私の心の奥の方にある琴線に触れるような、そんな感じが。

通常、テレビの「それいけ！アンパンマン」では、2番のみ流れます。歌詞を紹介します。それと同時に、考えてほしいこと。改めて自分自身と重ね合わせてほしいこともお伝えします。

そうだ うれしいんだ 生きる よろこび たとえ 胸の傷がいたんでも
なにが君のしあわせ なにをして よろこぶ わからないまま おわる そんなのはいやだ！

いきなりとても深いですね。みなさんは「生きるよろこび」感じていますか？年齢とともに何に喜びを見出すかは変わってくると思います。子ども向けのアニメの主題歌ですが、人生の厳しさを伝えているようにも感じます。「胸の傷がいた」むことは、今も、これから先もたくさんあると思います。それでも、なにが自分の幸せなのかを見失わずに、生きていきたいものです。

忘れないで 夢を こぼさないで 涙 だから 君は 飛ぶんだ どこまでも

子どものころの夢、覚えていますか？私は「天才の医者か科学者になって人の役に立ちたい！」と小学校の文集に書いていました(笑)。結果的に全く違う職業についていますが、「人のために何かできることをしたい」という思いは、持ち続けたいと思っています。「こぼさないで涙」、場合によっては心行くまで泣くのが良い時もありますが、私はめったなことでは泣かないようにしています（ここぞというときには何度か涙を流してしまいました）。泣くと、力が抜けてその後戦えなくなります。「センター試験で、たとえ1科目失敗しても涙は流すな！」と、手島先生も言っておられました。時に、ぐっと唇をかみしめて我慢する、耐え忍ぶということは大切なことです。

「君は 飛ぶんだ どこまでも」の部分には、これから小倉高校を出て、旅立っていく生徒たちの姿を重ねずにはいられませんでした。

そうだ おそれないで みんなのために 愛と 勇気だけが ともだちさ
ああ アンパンマン やさしい 君は いけ！ みんなの夢 まもるため

私の心に一番触れたのは最後のこの部分です。なぜアンパンマンは戦うのか、それはバイキンマンが嫌いなわけでも、彼をとっちめたいわけでもなく、「みんなの夢をまもるため」なのです。アンパンマンがバイキンマンと戦うのは、バイキンマンが食べ物を独り占めしようとしたり、誰かをひどい目にあわせたり、人のものを奪おうとしたりするとき、つまり「みんなの夢」が脅かされたときだけです。「生きるよろこび」や「君のしあわせ」は大切ですが、誰か一人だけがそれらを達成できるのはいけないのです。みんなの夢が守られる社会って理想ですよね。もう一つ考えてほしいのは、夢はあくまで「守られている」。誰かが代わりに叶えてくれるわけではない。でも、誰もが夢へ向かって頑張ることが保障されている社会。そんな社会を、小倉高校から巣立っていく生徒には実現してほしいと思っています。人の立場にたって考えることのできる、みんなの夢が何なのかを「思い遣る」ことのできる人になってほしいと思います

ぜひ時間を見つけて、久しぶりにじっくりと聞いてみてください。子供のころとは違った感じ方ができるはずです。自分流の「アンパンマンのマーチ」の解釈をしてみてください。